

第40回OYO展に参加して



松尾 敬太

MATSUO Keita

(株)協和エクスシオ
(本誌編集企画小委員)

平成25年10月10日・11日に、秋葉原UDXギャラリーにて「防災・減災全力宣言!!」をテーマに第40回OYO展が開催されました。

今回のOYO展では、世界有数の自然災害国である我が国の南海トラフ地震や首都直下型地震、火山災害などの甚大な被害が懸念される自然災害に対し「リスクの見える化」の製品や計測機器・ソリューションを紹介していました。

私は、10日の午後から会場を訪れ、二つのセミナー(写真-1:会場はほぼ満席で大盛況)を拝聴し、その後展示会場を見学しました。



写真-1 セミナーの様子

一つ目のセミナーは「事前防災・減災を継続する—首都直下型地震を事例に一」というタイトルでした。

東日本大震災から2年半が過ぎ、被災地の復興も全国各地の対策もいまだ道半ばの中、時間経過と共に薄れつつある危機意識に対し、首都直下型地震を事例に想定される被害や対策の課題を紹介していました。首都圏直下型地震(東京湾北部地震)が発生した場合、首都圏の人口集中地区でM6強を予測しています。火気を多く使用する冬18時での被害予測は以下の通りです。

- ・死者1~1.2万人
- ・負傷者20万人
- ・倒壊焼失建物25万棟
- ・避難者600万人
- ・帰宅困難者825万人 等々

東日本大震災と大きく異なるのは、倒壊と火災による災害が大部分を占めることです。対策としては、ハザードマップにより災害が起こりやすい場所と安全な場所を事前に把握することと、日常の訓練により「いざという時の行動に繋げる」ことが大切だと説明がありました。

二つ目のセミナーは「迫りくる火山噴火に備えて—過去の噴火災害から学ぶ—」というタイトルでした。

特に印象的だったのは、20世紀以降のM9以上の大地震後に火山噴火が発生していないのは東日本大震災のみということです。正直、驚きました(まだ可能性はゼロではない)。火山噴火の災害は地震とは異なり、溶岩流・火砕流・降灰・噴石・土石流・火山泥流・山体崩壊などがあり、発生すると火山周辺に甚大な被害を与えるそうです。想像しただけでもゾッとします。自然には勝てない! どうやって逃げるか! それには事前に災害規模や内容を予測し、把握しておくことが大切なのだと思いました。

展示会場では、「大地震への備え」と「防災・減災ソリューション」の2大テーマに基づいて、パネルや各種のシステム・測定機器が展示されていました。

展示コーナーでは、地震・津波・液状化・火山・豪雨等について、その発生メカニズムや発生に伴う被害状況や南海トラフ地震での津波シミュレーション等が展示されていました。

最先端の機器やテクノロジーによりあらゆる計測と解析が可能となっており、大きく掘らずに調査する技術はまさに「非開削」であり、当協会と通ずるものがあると思いました。中でも興味深かったのは「人命探査レーダー」です。我々も良く活用する電磁波を用いた埋設・空洞調査の技術を応用し、倒壊した建物や土

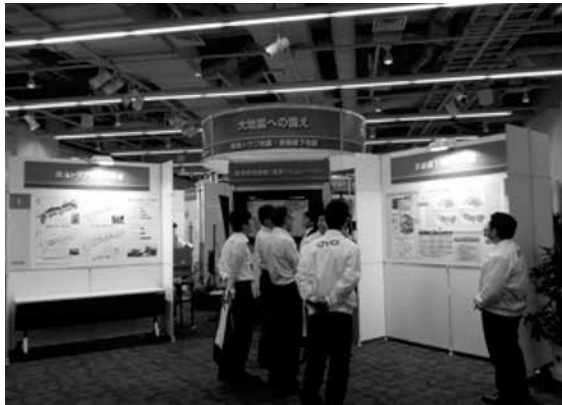


写真-2 展示コーナーの様子

砂の下敷きになっている生存者の呼吸による肺の動きを検出して迅速な救助活動を目的としたレーダーです。

防災・減災から災害が発生した場合の救助まで視野にいたれた展示に、感心させられました。つい先日の台

風26号で首都圏はあの交通機関マヒですから、セミナーでも言われていた「被災想定をわがことに」考え、自然災害に対する対策を事前に考え・行動することの大切さを痛感させられた展示会でした。

不確かな時代の今こそあなたのお役に立ちます



〈5大特色〉

1. 基本姿勢は地域の活性化と魅力ある街づくり
2. どのページも問題解決のキーポイント
3. 技術革新の動きをリアルタイムで伝達
4. わかりやすい文章で下水道の動きを紹介
5. 官・学・民にわたる双方向の情報交流を実現

—どのページも実務者の視点—

▶ 毎月15日発行 ◀
 ◀ 購読料 ▶
 年間18,900円(税込み・送料サービス)
 1冊1,575円(税込み・送料150円)

月刊下水道
 JOURNAL OF SEWERAGE, MONTHLY

お申し込み・お問い合わせは—
 (株)環境新聞社・月刊下水道購読係
 〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1富澤ビル
 TEL.03-3359-5371 FAX.03-3351-1939